

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	石井 美紀代	職名	准教授	学位	修士 (看護学)
----	--------	----	-----	----	----------

研究分野	研究内容のキーワード
地域・在宅看護学	継続看護、地域包括ケア、多職種連携

研究課題
<p>病院完結型医療から地域完結型医療へ変換され、診療報酬改正でも継続医療に関する加算が設けられることで、病院では入退院支援のしくみが作られている。一方、在宅ケアでは多職種連携が進んでいて在宅療養支援のしくみが作られている。両者でしくみが作られているが、患者側からみてシームレスにつながっているか、繋がるためにはどうすればいいか、看護の立場で研究する。</p>

担当授業科目
<p>* 社会保障概説 (看護学科 1 年 後期) * 家族と健康 (看護学科 2 年 前期) * 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ (看護学科 2 年 後期) 看護研究 (看護学科 3 年 前期) * 在宅看護学 (看護学科 3 年 前期) * 在宅看護学演習 (看護学科 3 年 前期) * 在宅看護学実習 (看護学科 3 年後期・4 年前期) * 看護総合演習 (看護学科 4 年 通年) * 看護総合実習 (看護学科 4 年 通年) * 研究演習 (看護学科 4 年 通年) 高齢者支援学Ⅰ (保健福祉学部共通科目 2 年集中) 高齢者支援学Ⅱ (保健福祉学部共通科目 4 年集中) ※履修者 0 名で開講せず 看護学 (栄養学科 3 年 後期) ※履修者 0 名で開講せず</p> <p>*は単位認定者として担当</p>

<p>授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)</p>
<p>授業科目名【 社会保障概説 】</p> <p>本講義は、社会福祉士の外部講師を含み 3 人で担当しており、単位認定者として調整も行った。講義は、社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生の 4 本柱を、制度の解説と法的根拠の整理だけではなく、患者や地域住民、家族と関連させた事例使って解説し、看護とのつながりを意識している。また、授業の最後には過去の国家試験で出題された問題を解いてもらい、資格取得に必要な知識であることを学生に理解してもらうように心掛けている。さらに、授業終わりには、毎回、質問の時間を確保した。</p> <p>中学や高校の「公民」の授業で日本国憲法や社会保障制度を学んできているが、学生の多くは苦手意識を持っている。法律や制度は暗記するのではなく、将来の看護の対象者に講義で得た知識をどう役立てるかを意識して学習することを積極的に問い、苦手だが頑張る意欲を持たせた。</p>
<p>授業科目名【 家族と健康 】</p> <p>講義は家族看護学の教科書を使い、家族を看護学、心理学、社会学でどう捉えているかを解説した。単位認定者として、社会学を専門とする外部講師にも 2 回講義してもらい調整も行った。家族看護には、アセスメントに使う理論がいくつかある。その代表的な理論を解説し、使える知識になるように事例を用いて各自で展開し提出を求め、次の週に解説した。</p> <p>学生の中には、自分の家族に対して複雑な感情をもっている者もいることが想定される。そのため、事前に学</p>

生支援室に協力を依頼するとともに、あえて自分の家族を説明したり分析したりさせずに、あくまで看護の対象としての架空の事例で講義を実施した。

授業科目名【 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ 】

この講義は、看護師課程は選択、保健師課程は必修である。保健師課程を目指す学生と、単位取得のみを目指す学生が混在しており、取り組み意欲に差があった。しかし、目標を下げることなく、専門雑誌の記事を資料にして実務とその背景や理論を押さえていった。

さらに、個人ワークからグループでディスカッションをして、先進的な取り組みについて成功する因子を思考させて理解を深めようとした。しかし、ディスカッションに慣れていないこと、前述のように学習意欲の差があり、グループで学習成果の差があった。そのため、ディスカッションが上手くできたグループに発表させ、製菓の共有を行っていった。

授業科目名【 在宅看護学・在宅看護学演習 】

今回は、在宅看護学と在宅看護学演習が時間割上続きであった。そのため、演習を中心に、講義と演習を同じテーマで流れを作った。演習の在宅看護過程では、共通事例の看護過程を見本として配布・解説し、さらに、熱の事例の看護過程をグループワークと個人ワークで完成させることで、個々人の知識・理解の習得を目指した。さらに、技術提供は手順書を、患者教育は指導案をグループで作成し、ロールプレイで発表した。

教員4人で担当しているため、指導や評価に差が出ないように頻りに打合せ、コメントの内容も出来るだけ統一した。しかし、評価基準を授業展開途中で変更することがあり、一部の学生に疑念を抱かせてしまったことが反省である。

授業科目名【 在宅看護学実習 】

在宅看護学実習は、学生に訪問看護師との同伴訪問を必ずさせることにこだわった。理由は、本学の学生のほとんどは急性期病院に就職する。病院実習であれば、就職してからでも経験できるが、訪問看護を経験するのは、学生時代しかないという場合が多い。在宅看護は対象の生活環境が違うところで臨機応変に看護を提供するもので、実習は現場から得ることが必要である。そのため、前年度から、コロナ禍であっても学生を1回以上の同伴訪問して下さる訪問看護ステーションを、助手とともに開拓していった。

学内実習と臨地実習とハイブリットとなった学生もあったが、すべての学生は同伴訪問が実施でき、学生に貴重な体験を提供することができた。

一方、これまで基礎実習から学内のみの実習だったことから、学生は臨地実習に慣れていないため、過緊張となり、楽しんで実習する様子が見られないまま終了することが多かった。また、学生を臨地に行かせたことで、今までになかった失敗やヒヤリハット事案が発生し、実習施設に謝罪に行くことが多かった。しかし、施設側は実習の重要性を理解していただいており、中断させることなく最後まで実習を継続させていただいたことに感謝している。

学生は、臨地実習より学内実習やリモート実習を好み、学生自身が看護学実習の辛さから逃れようとする姿勢があった。これは、在宅看護学実習だけの問題ではないことから、他の看護領域とも協働して指導していく必要性を感じた。

授業科目名【 看護研究 】

本講義は5名の教員で担当した。講義では、研究の流れ・研究デザイン・研究手続・研究倫理・研究計画書についての解説を行う。演習では、論文クリティーク、英語文献の要約、研究計画書の作成・量的研究と質的研究の分析体験・抄録作成と、研究の一連の流れを体験させた。5名の教員が、それぞれ複数のグループを分担して指導するため、授業前に打合せを十分に行い、方向性を一致させた。

一方、学生はオンライン授業に慣れ、オンラインでのグループワークの手法も獲得しており、フォームを使ったアンケート、ドライブ上のファイルの共同編集などの機能を使いこなした。また、時間外の作業も自分たちで時間調整して実施していた。一部のメンバーに負担があったグループもあったため、学生同士でのリーダーシップ・メンバーシップのあり方を学ぶことが、今後の学生の課題であるように思う。

授業科目名【 看護総合演習・看護総合実習 】

5人の学生は、例年通り、多領域の選抜を漏れて在宅領域に来た学生であった。それでも、在宅看護領域で、テーマを決めてもらった。前半は、自分が設定したテーマについて、入手可能な論文を読んで調べ、毎週1回、発表があった。メンバーのテーマを共有し、自分だったらどうするか、を考えて助言するように雰囲気盛り上げた。今年のメンバーには、自分の疑問や意見を伝えるのためらわぬ学生、さらに他者の意見をきいて修正できる学生がおり、それに影響されて自由な発言と相互作用が展開できていた。

後半は、学生に面談予約をさせながら個別に論文作成の指導を行った。すると、4年生は夏休み以降に登校する機会が減るため、学生の論文作成の進行に差が生じた。提出期限を定めるものの自発性を尊重したところ、最初の期限に提出した学生は、2名であった。

看護総合演習・看護総合実習の成果の論文は、論文集にしてゼミ生に配布した。さらに、学生に看護総合実習をさせていただいた施設に、論文集をもってお礼に行くことで、終了とした。

授業科目名【 研究演習 】

在宅看護領域で1名の学生がこの科目に取り組んだ。看護総合演習・看護総合実習でまとめた論文から、さらに文献検索し、研究計画書を作成して、看護学科1年生と4年生を対象とした調査研究を行い、論文にまとめた。そのため、取り掛かった時期が後期であり、国家試験に影響しないように短期集中で実施した。

Webによるアンケート調査を実施したことで、学生は倫理的配慮を教科書だけでなく調査研究に関する文献で調べて、十分考えることができた。また、学年による差が思うように出なかったことで、その背景についてさらに文献で調べて、考察できていた。

授業科目名【 高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ 】

高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ講義は総合人間科学に位置し保健福祉学部の3学科共同で行われる。高齢者支援学Ⅰは福祉学科の荒木先生を中心に、到達目標・講義展開・評価基準を統一するための打合せに力を注いだ。初日に講義、2日目に3学科合同で事例を使ったグループワークを行う。講義では、各学科のカリキュラムが違うために、高齢者の特性を共通認識させることに特化した。グループワークでは、3学科の学生が自分の得意分野を示そうと作業分担しがちになることから、3学科でディスカッションさせることに注力した。事例の問題をあげるだけでなく、その原因や要因を話し合う事を約束事にしたことから、解決方法が導きやすく具体的な方法が出された。看護学科の学生は、各グループの中でリーダーシップを発揮しており、これまでの授業でディスカッションになれていることが明らかになった。

高齢者支援学Ⅱは、受講生がおらず開講されなかった。

授業科目名【 看護学(栄養学科) 】

この講義は看護学科教員がオムニバスで行い、私は在宅療養における看護師と栄養士の機能について2コマ担当した。今年度は受講生がおらず、開講されなかった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本健康福祉政策学会		1997年6月～(現在に至る)
日本地域看護学会		1997年10月～(現在に至る)
日本看護学教育学会		1998年4月～(現在に至る)
日本公衆衛生学会		1998年4月～(現在に至る)
日本老年社会科学学会		1999年4月～(現在に至る)
日本学校保健学会		1999年4月～(現在に至る)
日本老年看護学会		1999年8月～(現在に至る)
日本看護研究学会		2001年11月～(現在に至る)
日本在宅ケア学会		2004年8月～(現在に至る)

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市介護認定審査会	委員	2007年4月～2023年3月
戸畑区地域ケア研究会	運営委員	2020年4月～2022年3月
福岡県看護協会看護研究倫理審査委員会	委員	2021年4月～2023年3月
北九州市開発審査会	委員	2022年11月30日～2024年11月29日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

[大学委員会]

学生募集委員

[学科役割]

要ネット・学生募集関連担当 (リーダー)

1年生アドバイザー